



### 年内の相場予想

この記事を書いている現時点（10月14日）では、13日に行われた11月以降船積みの関東鉄源の入札価格が、前回より2千円ほどの下げとなりました。

これにより各メーカーの10月の増産期と重なっていますが、先行きは下げ局面となる模様です。

ただ急落となるのか？と言うとそうでもなさそうです。

市中の鉄屑の発生が少ない為に問屋サイドに在庫が少ない状況が続く、メーカーの鉄屑入荷も芳しくない状態が続いています。

これによりメーカーの増産となる10月には鉄屑の使用量が増加するのに対し、鉄屑が思ったように集まらない問屋サイドの供給量に勢いがなくなることが今回の急落となる状況を回避している要因となっています。

先行きは？と申しますと、個人的な感覚で申し訳ないのですが（あまりにも鉄屑がグローバルになりすぎて予測が不可能に近い為）、11月中頃まではジリ下げ傾向が続く後半から横這いもしくは韓国・中国・台湾の買い入れにより上げ基調に移るのでは？と予測しているのですがいかがなものでしょうか？

価格変動の時期の多少の前後は、あくまでも個人的予測なのでお許しください。

最近のニュースで気がかりなのは、アメリカを襲った大型ハリケーン「カトリーナ」・「リタ」により、ニューオリンズの町に壊滅的影響が出たということです。

それが？と思われると思いますが、気になる

のは、そこに使われていた鉄が復興の過程で鉄屑となりその量が膨大なものになるのでは？ということなのです。

確かにアメリカ国内でも鉄屑は使われますが、メーカーの操業率は85%以上を超えている為、少しの量しか使用できないと思われま

す。  
残りは？となると、当然世界の粗鋼生産量の半分以上を占めるアジアに向けられるのは理にかなっているのではないのでしょうか。

この輸出がいつになるかが気がかりな点なのですが、おそらくこの米屑の輸出時期が、相場の下げ基調をたどるのは間違いないと思われ

れます。  
ただ確実に下げ相場時の底値は上がっています。

### アスベスト

実は最近鉄屑が少なくなっているのはこのアスベスト問題により建物解体にストップがかかっているのが大きな原因ではと考えられています。

このアスベスト、厄介な物で、飛散性と言われている石綿なら見ても判るのですが、非飛散性と言われる石膏ボードや自動車のブレーキパッド、配管に使われる保温材と多岐に渡って身近な所で使われています。

当然建物解体をする場合には、飛散しないように養生をし、撤去後の石綿も必要な措置がとられた後に処分（埋め立て等が一般的）されます。

そして石綿撤去後に本格的な解体工事となるのですが、事前調査・石綿撤去段階で大きく時間を取られている状況のようです。

環境省の方でも取り扱いにあいまいな部分がまだ多く、はっきりした取り扱いの出ていない物もあるので今後も環境省の発表には目が離せない状況となっています。

弊社と致しましても、アスベストと思われる物に関しては取り扱いができませんので今後ともご注意の程よろしく御願い致します。